



# 家族の支えを見つめる道徳

## － 「当たり前」の向こう側へ －

6月2日(火)5時間目。4年1組の道徳では、『お母さんのせいきゅう書』という題材を通して、家族のためにすることや、家族が自分のためにしてくれていることについて考えました。

授業のはじめには、子どもたちから、皿洗い、水筒の準備、食事の準備、洗濯など、自分が家庭でしていることがたくさん出されました。みんな、結構お手伝いってやってるんですね！すごい！

また、その中には、「お手伝いは面倒くさい」といった率直な声も聞かれましたが、本音が出るのも◎!自分の生活に引き寄せながらしっかり考えていましたよ。

教科書のお話の中では、「家族のためにすることは、お金で測れるのか」という問いをめぐって、子どもたち同士が考えを交わしました。毎日の食事、習い事の送迎、洗濯など、家族が日々してくれていることにも目を向ける時間になりました。

道徳の時間を通して、子どもたちは家族が日々してくれていることに目を向け、自分の生活の中にある「当たり前」の、その向こう側にある思いについて考えることができました。

